

水路やため池への 転落事故に 気をつけて!!



近くで危ない事をしない!

水路やため池の近くでは、ボール遊びなど危ない事をしないようにしましょう。



子どもを近づけない!

水路やため池に子どもが近づかないようにご家庭で話をしてください。水路やため池の近くでは子どもから目を離さないでください。



遊んでいる子どもを見かけたら注意!

皆さんの見守り活動が子どもたちを危険から守ります。家庭や地域全体で、子どもたちを事故から守りましょう。



身近にひそむ命の危険

こんな事が考えられます

後追い沈水

ため池に釣りに来ていた小学1年生の男の子と33歳の父親の2人が死亡しました。

【事故の概要】

ため池で、「人が落ちている」と近隣住民から110番があった。駆けつけた救急隊員が、水中に沈んでいる男性(33)と、水面に浮かんでいる小学1年の息子(6)を発見。男性は現場で、息子は搬送先の病院でいずれも死亡が確認された。

ため池の水深は約6メートル。周囲に柵はなかった。父子で釣りに来ていたが、帰宅が遅いため、妻が現場に行き息子を見つけ、近くの住民が通報したという。誤って転落した可能性がある。ため池における典型的な後追い沈水とみることができます。

【後追い沈水】

1人目が深みにはまり、とっさに2人目が近づきやはり深みへ。そして3人目も同じ行動を起こします。4人目以降は通報に走るため、大抵は3人が犠牲になります。



自転車水路の転落

子供とお年寄り自転車水路転落の意外な原因
通路・道路に隠れた危険とは

【事故の概要】

5歳くらいの男の子が自転車で、その後ろをお母さんが追いかけるように信濃川堤防通路を歩いています。自転車の男の子がゆっくりと人に向かって進んでいます。お母さんの「危ないよ」の声がし、「ブレーキをかけて止まるかな?」と思ったが、人の前を斜めに横切り、草の斜面に入って堤防を転落してしまいました。

普通だったら目の前の人を避けるため、ブレーキをかけて止まるはずなのに、どうしてブレーキをかけ忘れるほどのパニックに陥ったのか。その原因を探るために現場の堤防通路の検証を行いました。

■堤防通路の様子

堤防通路面は、雨が降ったときに雨水を逃したりするために幅方向を斜めにしています。写真でも何となく舗装面が右から左端に向かって傾いている様子がわかります。またこの通路は、前に進むにつれて下り坂になっており、さらに左側に傾斜しています。この傾斜は、子どもの自転車を自然に堤防斜面の方向に進めてしまうくらいの斜度に見えました。

■道路脇の水路でも同じ危険がある

水路が脇にある道路にしても、水勾配や下り坂はあります。よほどのことがない限りはこのような傾斜に自転車の進行方向が影響することはないでしょうが、小さなお子さんや高齢者が何かをきっかけにして、この傾斜に従って進んでしまう原因になってしまいます。そして、その先には水があり、場合によっては溺れてしまいます。



出典：水難総合研究所 <https://adril.co.jp/activity/publication-article/>

